

©2022 YHAL, YTP, Kyoto University
京都大学 国際郵便部 発行

BY AIR MAIL
PAR AVION



Prof. H. Yukawa

Research Inst. for Fundamental Phys.

Kyoto University, Kyoto

Japan

京都市左京区北白川
京都大学基礎物理学研究所
湯川秀樹先生

©2022 YHAL, YTP, Kyoto University
京都大学大学院文学部言語学専攻 言語学研究室



HOTEL ASTORIA GENÈVE

Sho Tanaka

Swiss
ETCO



4



HOTEL ASTORIA GENÈVE

1.
田中正弘 先生 宛 会議報告

1211 Genève 1
6, place Cornavin
tél. : 022 - 32 10 25
télégramme : Astoriaotel
télex : 22 307

1968年9月7日

湯川先生

出発に際しては種々御心配をおかけ致しました。
一昨日とばかり無事ウィーンの会議をおえて、
今日松本君と一諸にジュネーブにやって参りました。
ニースには9日到着の予定をしております。

ウィーンの会議の会場は、王宮の大広間^{グランド}に
はも荘厳でおか、音響効果が最悪で
たいどいもきこえない英語が、ひどい
反響をおこしてなやまされました。全体と
しての印象はとにかく一刻も速く結果
をお報せしなければという様なことは
殆んどないという所だと思えます。バリオン
resonance が実験的に新しいのか？ 決りみわりの
光中の SU₆ スキームの上にはうまくおるとか、
CP-viol. の data が示かめられたとか、電
子の mag. mom. が理論値と一寸違いか
ありそうかとかいつた所だと思えます。



HOTEL ASTORIA GENÈVE

1211 Genève 1
6, place Cornavin
tél. : 022 - 32 10 25
télégramme : Astoriaotel
télex : 22 307

2.
むしろ 私にとっては、会議に出席して在外中の
日本人たち等を通じて、日本の物理への
感想やアメリカ、ヨーロッパの現在の物理の
進め方や発想について知ることができたのが
非常に貴重でした。それらの意見は大変まち
まちで、特にヨーロッパの木庭さんやアメリカの
崎田、大根田さんやまたアメリカの菅原君とかの
若いジェネレーションの間に大変見方の相違の
あることも印象的です。しかし何れも日本
の現象論のあり方とマシンのどうなるかに大き
な関心を示しています。

会議の中で一つの焦点となったものに Venegiano
という若いイタリア人の仕事がありました。これは、
Regge pole 理論と Resonances の相関をめぐって最近
"double counting" という問題がありますが、それ
に対して一つの見通しを与える可能性のあるもの
のようです。その評価は私にはまだ十分



3

HOTEL ASTORIA GENÈVE

1211 Genève 1
6, place Cornavin
tél. : 022 - 32 10 25
télégramme : Astoriaotel
téléc : 22 307

には分りませんが、崎田君との議論では
これは一見全く思いつきの形をしていて、
見方によっては将軍の理論への一つの手戻
を与えるような半実験式（これは何れの
チャネルでも漸近的に Regge pole beh. を示し、か
幾つかの公理的な要請を満たす）とも見ら
れるのではないかとこのころです。吾々のやっ
ていることとも関係があり、非局所
性が入っている筈で、これを捨てたら何か
参考になることがあるかとも思います。

明日はモン・ブランに登って気分を一転して
→スに向う予定です。 ウーン、ジュネーブ
はそれなりにすばらしく、enjoy しました。松本
君のヨーロッパの第一印象は強烈で、「コ
ンバスの大陸発見の感激」がいまよく
分ったと名言をはきました。

帰国後いろいろお話しできまふことを案
みにはしております。

ジュネーブにて。

田中 正

